

ベネッセの生成AI教育戦略：まなびの未来を創る4つの次元

1. 組織開発と技術基盤 (社内DX)



社長直下の特合桃織「DIP」が変革を牽引
「Digital Innovation Partners」が携手事成長にコミット
Azure OpenAI Serviceによる「データレジデンシ」の確保：
児童・生徒の機微データを国内データセンターで管理し、
高いセキュリティと日本語の精緻な理解を両立。

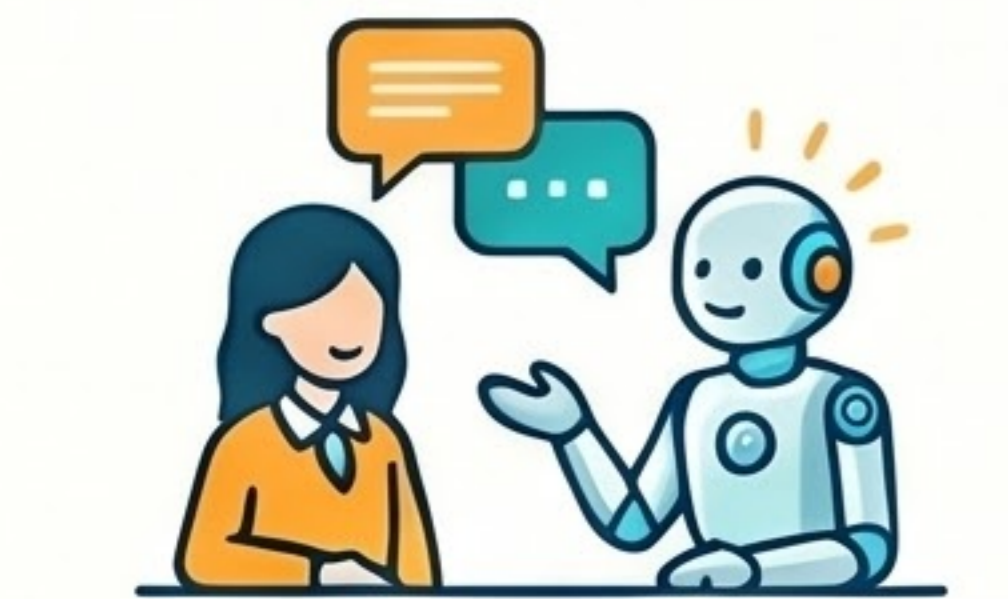
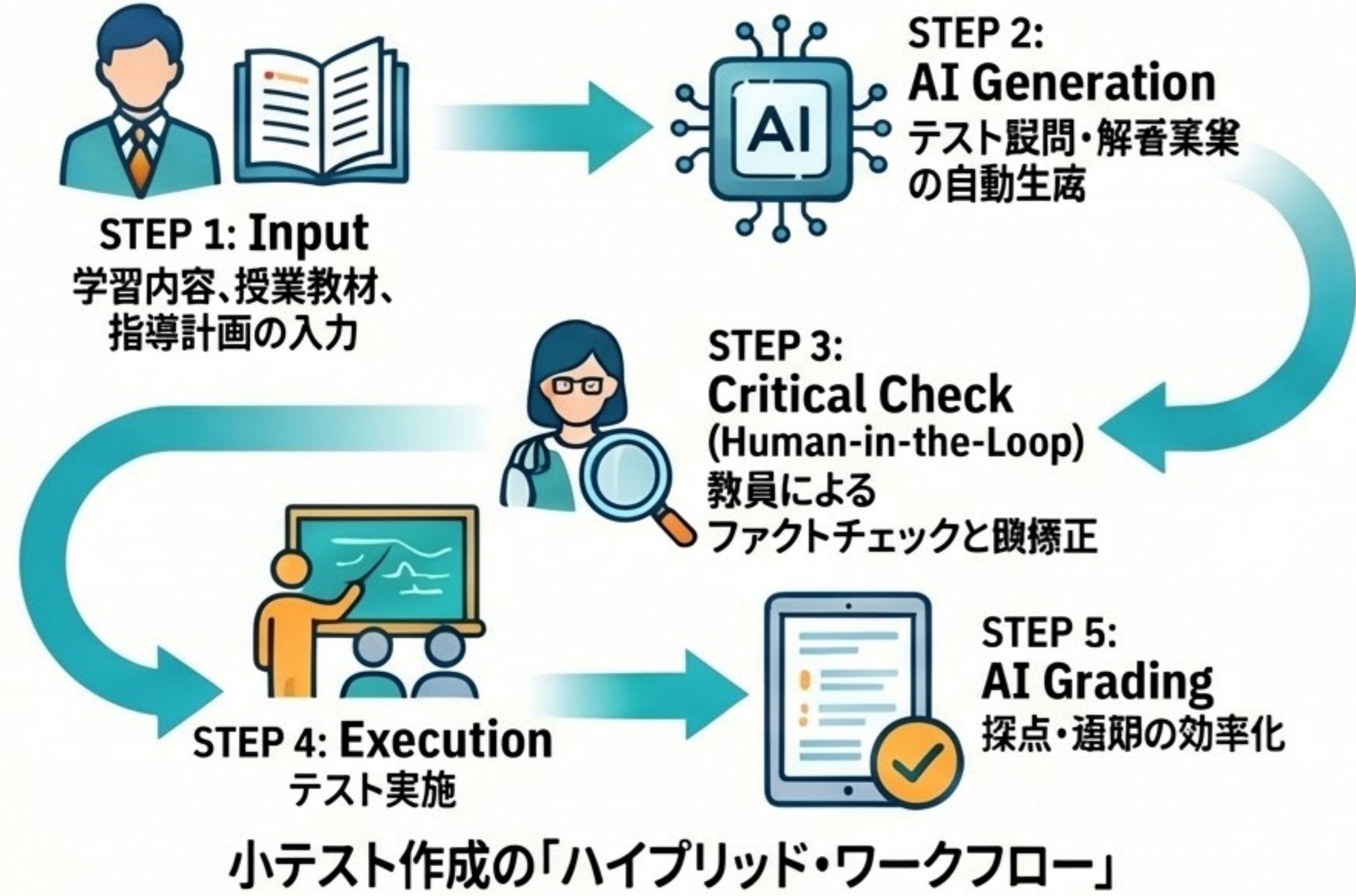


15,000

グループ社員に独自AI
「Benesse GPT」を展開

業務生産性劇的に改善
社内問合せの7割に精棲に回答
(2023年4月～)

2. 公教育・学校現場への実装 (BtoG / BtoB)



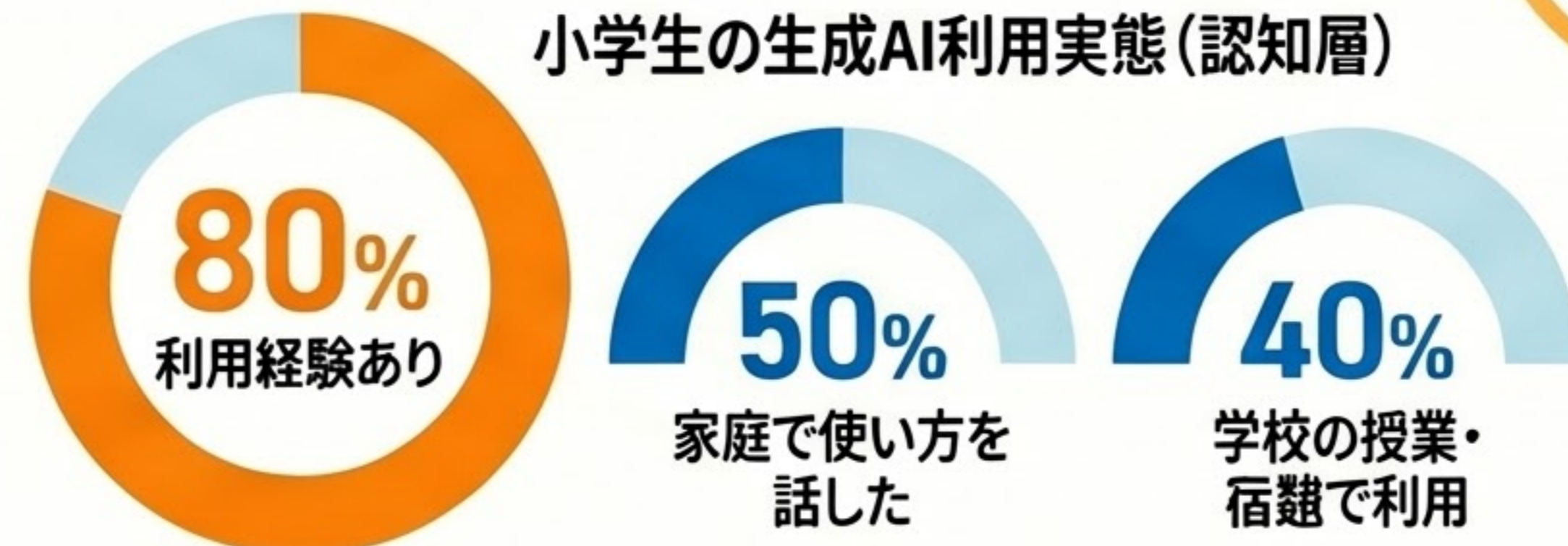
「ミライシード」による
対話型の思考拡張
AIを「思考の堅打ち相手」として
活用、情動学習を促進



「Classi」による
アダプティブラーニング
進捗構設のデータと連動、理解度
に合わせて簡易度を動的に変化

4. 社会的責任と倫理・ルールメイキング

小学生の生成AI利用実態(認知層)



生成AI利用習慣化フェーズ、一方で家庭内対話にギャップ。リテラシー教育が急務

3. 家庭学習・個人向けサービス (BtoC)



「チャレンジ AI学習コーチ」の導入
24時間質問可能なAIコーチが
「わからない」壁を打破、自律学習を支援

「チャレンジ AI学習コーチ」の導入
24時間質問可能なIコーチを通し、
国内データセンター内、自律学習を支援

教育市場における主要プレイヤーの比較

進研ゼミ (ベネッセ)	スマイルゼミ (ジャストシステム)	スタディサプリ (リクルート)
<ul style="list-style-type: none"> 主要機能 AI学習コーチ、 ビジュアル解説 戦略的集点 自学自習の「質問でき ない壁」の破壊、人間× AIのハイブリッド指導 	<ul style="list-style-type: none"> 主要機能 24時間質問対応、 自由記述のリアルタ イム準制 戦略的集点 テスト点数向上と 志望校合格への直結 	<ul style="list-style-type: none"> 主要機能 双方向型AI英会話、 リアルタイム応答 戦略的集点 実践的会話力の向上、 アウトプット量の拡大 (送束比2.3倍)

ベネッセの強みは「膨大な学習データ」

汎用AIと異なり、数十年分のアセスメントデータに基づいた教育的指導



一般社団法人「Generative AI Japan」の設立
産学連携コンソーシアムを主導し、業界標準の確立と
安全な社会実装のためのルールメイキングを牽引